

株主メモ

決 算 期	2月末日
定 時 株 主 総 会	5月
基 準 日	2月末日
	その他必要あるときは、あらかじめ公告いたします。
配当金の受領株主確定日	利益配当金 2月末日
	中間配当金 8月末日
公 告 掲 載 紙	日本経済新聞
	当社は、決算公告に代えて、商法特例法第16条第5項に定める貸借対照表及び損益計算書を下記のインターネットホームページアドレスにおいてご提供いたします。
	http://www.aspir.co.jp/kessan/7610/7610.html
名 義 書 換 代 理 人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号
	住友信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号
	住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 電話お問合せ先	東京都府中市日鋼町1番10 (〒183-8701)
	住友信託銀行株式会社 証券代行部
	(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417
	(その他のご照会) ☎ 0120-176-417
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国各支店

株式会社テイツー

IR窓口:東京都港区芝大門2丁目4番7号 浜松町大和ビル4F
TEL (03) 5408-5542 メールアドレスir@tay2.co.jp

インターネットホームページ <http://www.tay2.co.jp>

第15期 事業報告書

2004年3月1日～2005年2月28日

株式会社テイツー



代表取締役社長 大橋康宏

Q 2005年2月期の業績についてお聞かせください

A 2005年2月期の連結売上高は336億3千万円（前期比19.9%増）と、創業以来14期連続の増収を達成することができました。

古本市場事業におきましては、直営店5店舗、業務提携・FC店9店舗を出店したほか、3店舗のリニューアルの実施、「卸売システム」の運用開始、夏と冬の大型キャンペーンの実施など店舗競争力の向上に努めてまいりました。そうした効果に加え、昨年末に新型ゲーム機が発売されたこともあり、古本市場事業の既存店売上高の対前年比は5.1%増と力強い成長を示すことができました。

アイ・カフェ事業におきましても、直営店5店舗、FC店4店舗を出店したほか、小型パッケージの開発、インターネット株式会社を買収など、多店舗展開に向けた基盤整備を行ってまいりました。その結果、新店の効果に加え、既存店売上も順調に拡大しており、アイ・カフェ事業の売上高は大きく増加いたしました。

EC事業につきましても、インターネットサイト [www.aikawa.com](#) のリニューアルやiモード®公式メニューへの登録など、利便性の向上と集客力拡大のための施策が功を奏し、EC事業の売上高は大きく増加したほか、通年では初めて黒字を達成いたしました。

一方、利益面では、アイ・カフェ直営店の出店が前期の3店舗から5店舗に増加し、出店時に発生する一過性の費用が増加したほか、アイ・カフェ新店の店舗運営をより早期に軌道に乗せるため積極的な販促活動を実施いたしました。また、減損会計を2年前倒して適用し、古本市場の一部店舗を減損処理したほか、税法基準による耐用年数で減価償却してきた店舗資産の耐用年数を20年に短縮したことなどに伴い、特別損失1億3千8百万円を計上いたしました。

こうした結果、連結経常利益は7億7千1百万円（前期比6.3%減）、連結当期純利益は4億6百万円（同5.7%減）となりました。しかしながら、これらは将来に向けた前向きなコストであり、その成果が来期以降に発揮されるものと認識しております。

Q アイ・カフェ企業理念を定められたそうですが

A インターネット・コミック・カフェ市場は急成長しておりますが、同業他社による出店も増加しており、今後、競争は激しくなってくるものと思われまます。こうした環境下において、アイ・カフェを営む方々の結束を強化し主体的な判断と行動をうながすとともに、アイ・カフェに対する社会からの理解と信頼を醸成し、アイ・カフェ事業の発展を図るため、次のとおり、アイ・カフェ企業理念を定めました。

アイ・カフェ企業理念 ～アイ・カフェのゴールデン・ルール～

1. 私たちは、驚きと感動を創造しつづけることを最大の使命とします。
2. 私たちは、快適な時間と空間を提供しつづけることをお約束します。

この企業理念の下、アイ・カフェ事業を加速してまいります。

Q 中長期の経営目標について教えてください

A 当社は、企業価値最大化の観点から、収益性の追求と財務安全性の確保をバランス良く実現することを目指しており、自己資本利益率（ROE）及び自己資本比率を最重要経営指標と位置づけております。ここ数年、自己資本利益率、自己資本比率は低下傾向にありますが、古本市場事業におきましては、店舗改装の実施など既存店の店舗競争力向上に注力し、安定的な利益成長を図るとともに、アイ・カフェ事業の売上拡大と早期の黒字転換、EC事業の売上ならびに黒字の拡大を図ることにより、2008年2月期において連結自己資本利益率20%を目指してまいります。

Q 株式分割を実施した狙いは何ですか？

A 当社は、2004年2月に1株を5株に分割する株式分割を実施いたしました。これに続きまして、2005年4月20日付で1株を10株に分割する株式分割を実施いたしました。これは株式市場における当社株式の流動性の向上を図ることはもちろんのこと、当社株式のご購入に要する金額を大きく引き下げることにより、より多くの方々、とりわけ「古本市場」や「アイ・カフェ」のファンの皆様、会社のファンにもなっていただきたいと考えていたからです。実際、株式分割の効果もあり、2005年2月期末の株主数は、前期末に比べて2,682名増加し4,878名となりました。

これからも配当などを通じた株主還元を努めてまいります。

Sales Activities 営業の概況

古本市場事業

古本市場事業は、上半期こそ、ゲーム市場の不振の影響などから伸び悩む場面が見られたものの、年末に携帯型の新型ゲーム機である「ニンテンドーDS」、「プレイステーション・ポータブル」が発売されたほか、ソフトでも「ドラゴンクエストⅧ」やその他大型タイトルが販売されたことから、ゲーム市場が活況を取り戻し、古本市場事業の既存店売上高対前年比は5.1%増と好調に推移いたしました。

店舗に関しましては、新規出店に加え既存店のリニューアルを進めており、直営店5店舗、業務提携・FC店9店舗の出店のほか、直営店3店舗をリニューアルオープンいたしました。加えて、2004年11月には古本市場東大和店（東京都）をFC加盟企業に営業譲渡しております。

顧客サービス面に関しては、「ふる1カード」及び「第3次CRM（顧客情報）システム」の活用による「ワントゥワン マーケティング」の質的な向上に取り組んだほか、新物流システムの一環として「卸売システム」の運用の開始、夏と冬の大型販促キャンペーンの実施などにより業績の拡大を図りました。

この結果、古本市場事業の売上高は318億3千8百万円、営業利益は16億3千万円となりました。

アイカフェ事業

インターネット・コミック・カフェ市場は、急成長が続いていると考えられますが、こうした中、アイ・カフェ企業理念を定め、積極出店による事業の拡大を図るとともに、多店舗展開のための各種足場固めを行いました。

出店に関しましては、直営店5店舗の出店を行うとともに、今期よりFC店の出店を開始し、4店舗を出店いたしました。なお、FC店のうち2店舗は、アイ・カフェの魅力である清潔感やサービスの質をそのままに、スペース効率を追求した小型パッケージ店舗であるアイ・カフェ Annexであります。

システム面におきましては2004年9月にインターピア株式会社を株式取得により連結子会社とし、事業基盤構築の早期実現を推進しました。同社はインターネット・カフェ向けの店舗運営管理システム



(Necca -Manager System Solution) などの販売を行っておりますが、それらをアイ・カフェ店舗に導入することにより、アイ・カフェ店舗の店舗運営システムを強化し、「インターネット・コミック・カフェ」ビジネスの多様化に対応するための事業基盤を確立してまいります。

この結果、アイ・カフェ事業の売上高は13億1千2百万円となりました。一方、利益面におきましては、直営店5店舗の出店により、出店時に発生する一過性の費用（備品・什器等の消耗品費及び初期販促費用等）の影響などによって2億2千9百万円の営業損失となりました。

EC事業

EC（電子商取引）事業につきましては、トラフィック（サイトの閲覧者）の多いポータルサイト運営会社、ISP（インターネット接続会社）との提携強化により、サイトの集客力増強を図ったほか、iモード®サイトをオープンし、携帯電話の使用頻度の高い若年層を中心とした利用の増加を推進しました。

さらに、当社の持つ約1,500万冊の古本在庫情報の共有化により、国内最大級の在庫数量の中から商品が選択できるシステムとし、顧客満足的大幅な向上を実現いたしました。

以上の結果、EC事業の売上高は、4億7千8百万円、営業利益は1千2百万円となりました。

こうした結果、当連結会計年度の連結売上高は336億3千万円（前期比19.9%増）となりました。一方、利益面におきましては、アイ・カフェの新規出店およびその他各種先行投資の影響のほか、減損会計を2年前倒して2005年2月期より適用し、古本市場の一部店舗の減損処理を行ったほか、従来、税法基準による耐用年数で減価償却を行ってきた店舗資産の耐用年数を上限を20年に短縮したことなどにより、1億3千8百万円の特別損失を計上いたしました。その結果、連結経常利益は7億7千1百万円（同6.3%減）、連結当期純利益は4億6百万円（同5.7%減）となりました。

古本市場ウインターキャンペーンの実施



古本市場では、夏の「LIP PEOPLE SUMMERキャンペーン2004」に続き、2004年12月に「ウインターキャンペーン！2004」を実施いたしました。この「ウインターキャンペーン！2004」では、スタンプを貯めると豪華旅行などが当たる「スタンプDEトラベルキャンペーン」のほか、「ふる1カード」のポイントを素敵な小物や現金と交換できる「ポイントDEハッピーキャンペーン」、同じく「ふる1カード」のポイントで、ニンテンドーDSや新型PS2本体など豪華商品の抽選に参加できる「ポイントDEラッキーキャンペーン」の3つからなる複合企画です。このうち、「ポイントDEハッピーキャンペーン」、「ポイントDEラッキーキャンペーン」は企画内容を一部更新しながら、現在も継続中です。

今後も、「古本市場」の日頃のご愛顧に感謝すべく、様々な企画を展開してまいります。

インターネットサイト  がより便利に

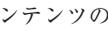
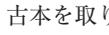
リニューアル後の@古本市場
URL:www.ubook.co.jp



iモード®版@古本市場
メニューリスト→ショッピング/
チケット→本/CD/ゲーム→
@古本市場

インターネット上で古本、新品・中古のゲーム、CD、DVD等の販売・買取を行っている  が、2004年12月15日より大幅リニューアルいたしました。

古本の検索・購入において、リアル店舗である古本市場の在庫を活用することが可能となり、検索・購入可能な在庫数が70万冊から1,500万冊に増加したほか、入荷待ちの商品が入荷した際、メールでお伝えする「入った！め〜る®」サービスに、従来のCD・DVD・ゲームに加え古本も可能となりました。こうした利便性アップに加えて、サイトデザインも使いやすく便利な構造にリニューアルし、検索機能も強化いたしました。

さらに、2004年12月20日にはNTTドコモのiモード®公式メニューに  (情報料無料) が登録されました。iモード®向けの公式コンテンツのうち、古本を取り扱うサイトは  が初めてであり、iモード®のトップ画面メニューから簡単な操作で、いつでもどこでも思いついたときに、古本や新品・中古ゲーム、CD、DVDの商品検索や購入ができます。

また、2005年4月27日からは、同様のサービスがVodafone live!®でも可能になったほか、EZweb®も5月中旬にオープン予定です。

アイ・カフェ Annexの出店

アネックス



アイ・カフェAnnex安中店

大幅に引き下げられるだけでなく、従来、アイ・カフェを出店することが難しかった物件への出店も可能になったことから、物件取得面のハードルも低くなり、アイ・カフェの展開スピードが拡大するものと期待しております。

Annexとは“別館”という意味で、従来のアイ・カフェは店舗面積が200坪〜400坪の大型店舗が中心でしたが、アイ・カフェの魅力である清潔感やサービスの質をそのままに、スペース効率を追求したシンプルかつ快適な、130坪〜180坪程度の小型パッケージ店舗であるアイ・カフェ Annexを新しく開発し、2004年12月にアイ・カフェ Annex安中店（群馬県）、2005年2月にアイ・カフェ Annex堀の宮店（福井県）を出店いたしました。これにより、出店にかかる初期投資を大



アイ・カフェAnnex安中店

株式分割の実施

当社株式の流動性を向上させるとともに、お求めやすい株価にすることにより、より多くの方に当社株式をご所有いただけるよう、当社は、2004年2月20日付で1：5の株式分割を実施したの続き、2005年4月20日付で普通株式1株を10株に分割する株式分割を実施いたしました。こうした株式分割の効果もあり、2005年2月期末の株主数は4,878名と、2004年2月期末に比べて2,682名増加いたしました。また、株式市場における当社株式の出来高も増加傾向にあります。

減損会計を2年前倒し適用

2005年4月以降に開始する事業年度（当社の場合は2007年2月期）から減損会計が適用されることとなっておりますが、当社は、それを2年前倒し2005年2月期より減損会計を早々期適用し、一部店舗の減損処理を行いました。また、減損会計の適用を機に、従来、税法基準による耐用年数で減価償却を行ってきた店舗資産の耐用年数を経済的耐用年数として上限を20年といたしました。

これらの処理に伴い、1億1千2百万円の特別損失を計上いたしました。これにより、財務体質の健全性が向上するだけでなく、早期に資産償却を完了することにより、売場の改装やレイアウト変更を柔軟に行える体制が構築できると認識しております。

Financial Highlight 財務データ (連結)

売上高



経常利益



総資産



純資産



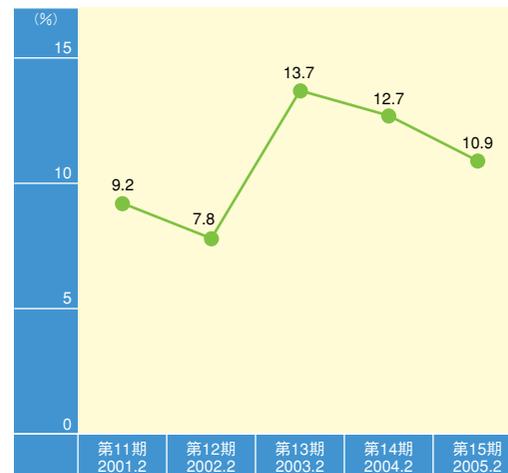
当期純利益



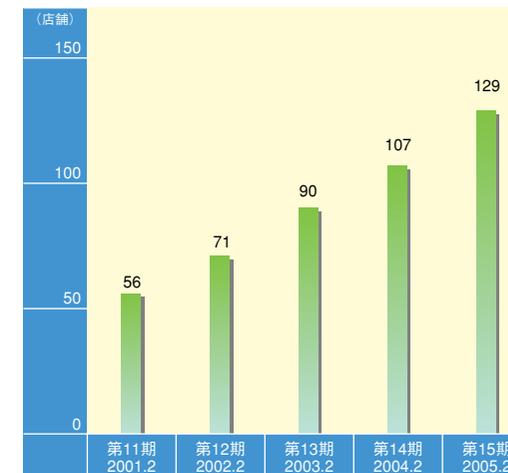
売上高経常利益率



自己資本利益率 (ROE)



店舗数



Financial Data 連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 (2005年2月28日現在)	前期 (2004年2月29日現在)	科目	当期 (2005年2月28日現在)	前期 (2004年2月29日現在)
【資産の部】			【負債の部】		
流動資産	5,970	4,992	流動負債	4,710	3,895
現金及び預金	1,444	1,152	買掛金	1,209	1,445
たな卸資産	3,704	3,191	短期借入金	1,200	450
繰延税金資産	212	151	1年内返済予定長期借入金	942	872
その他	609	497	未払金	319	372
固定資産	5,251	4,512	未払法人税等	274	266
有形固定資産	2,478	2,092	ポイント値引引当金	257	234
建物及び構築物	1,806	1,440	その他	506	254
土地	242	240	固定負債	2,397	1,876
その他	429	411	長期借入金	2,071	1,677
無形固定資産	365	386	その他	326	199
ソフトウェア	191	308	負債合計	7,107	5,772
その他	173	78	【少数株主持分】		
投資その他の資産	2,408	2,033	少数株主持分	242	164
投資有価証券	196	188	【資本の部】		
長期貸付金	523	544	資本金	1,123	1,084
繰延税金資産	301	169	資本剰余金	1,077	1,038
差入保証金	1,252	994	利益剰余金	1,959	1,658
その他	135	135	株式等評価差額金	1	1
			自己株式	△290	△215
			資本合計	3,872	3,567
資産合計	11,222	9,505	負債、少数株主持分及び資本合計	11,222	9,505

ポイント解説 1

古本市場直営店5店舗、アイ・カフェ直営店5店舗の出店により、たな卸資産、建物及び構築物、差入保証金などが増加いたしました。

ポイント解説 2

2005年2月は、前年同月に比べて新品ゲームの人気タイトルが少なく、買掛金が減少いたしました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 (2004年3月1日から 2005年2月28日まで)	前期 (2003年3月1日から 2004年2月29日まで)
売上高	33,630	28,055
売上原価	24,672	20,150
売上総利益	8,957	7,904
販売費及び一般管理費	8,167	7,058
営業利益	790	845
営業外収益	105	75
受取利息及び配当金	2	4
その他	102	70
営業外費用	124	97
支払利息	45	32
その他	78	65
経常利益	771	823
特別利益	142	3
特別損失	138	2
税金等調整前当期純利益	775	824
法人税、住民税及び事業税	521	489
法人税等調整額	△191	△85
少数株主利益又は損失(△は利益)	39	△10
当期純利益	406	430

ポイント解説 3

古本市場東大和店、アイ・カフェ高崎店のFC加盟企業への営業譲渡などに伴い、1億4千2百万円の特別利益を計上いたしました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当期 (2004年3月1日から 2005年2月28日まで)	前期 (2003年3月1日から 2004年2月29日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	229	961
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,071	△1,176
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,134	553
現金及び現金同等物の増加額	292	338
現金及び現金同等物の期首残高	1,069	531
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	198
現金及び現金同等物の期末残高	1,361	1,069

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	当期 (2004年3月1日から 2005年2月28日まで)	前期 (2003年3月1日から 2004年2月29日まで)
【資本剰余金の部】		
資本剰余金期首残高	1,038	1,025
資本剰余金増加高	38	13
資本剰余金期末残高	1,077	1,038
【利益剰余金の部】		
利益剰余金期首残高	1,658	1,325
利益剰余金増加高	406	430
利益剰余金減少高	104	98
利益剰余金期末残高	1,959	1,658

ポイント解説 4

減損会計適用による一部店舗の減損処理、建物の償却期間の20年への短縮などにより、1億3千8百万円の特別損失を計上いたしました。

Financial Data 財務諸表

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 (2005年2月28日現在)	前期 (2004年2月29日現在)	科目	当期 (2005年2月28日現在)	前期 (2004年2月29日現在)
【資産の部】			【負債の部】		
流動資産	4,923	4,232	流動負債	3,999	3,325
現金及び預金	693	755	買掛金	875	1,103
商品	3,203	2,720	短期借入金	1,200	450
前払費用	171	146	1年内返済予定長期借入金	840	806
繰延税金資産	162	151	未払金	290	256
その他	691	458	ポイント値引引当金	247	222
固定資産	5,087	4,495	その他	545	486
有形固定資産	1,944	1,663	固定負債	1,979	1,619
建物	1,394	1,012	長期借入金	1,713	1,484
構築物	132	110	退職給付引当金	42	35
土地	173	173	役員退職慰労引当金	105	81
その他	242	367	その他	117	17
無形固定資産	174	319	負債合計	5,978	4,944
投資その他の資産	2,968	2,512	【資本の部】		
投資有価証券	303	108	資本金	1,123	1,084
長期貸付金	495	511	資本剰余金	1,077	1,038
長期前払費用	109	104	利益剰余金	2,119	1,873
繰延税金資産	293	171	株式等評価差額金	1	1
差入保証金	1,123	876	自己株式	△290	△215
その他	643	739	資本合計	4,031	3,782
資産合計	10,010	8,727	負債及び資本合計	10,010	8,727

11

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 (2004年3月1日から 2005年2月28日まで)	前期 (2003年3月1日から 2004年2月29日まで)
営業収益	31,112	26,824
売上高	31,112	26,824
営業費用	30,309	25,904
売上原価	22,909	19,321
販売費及び一般管理費	7,399	6,582
営業利益	803	919
営業外収益	17	20
受取利息及び配当金	3	5
その他	14	15
営業外費用	40	30
支払利息	39	30
その他	1	—
経常利益	780	910
特別利益	163	3
特別損失	208	5
税引前当期純利益	735	907
法人税、住民税及び事業税	518	487
法人税等調整額	△133	△86
当期純利益	350	506
前期繰越利益	267	259
中間配当額	55	49
当期未処分利益	563	717

利益処分

(単位:円)

科目	当期	前期
当期未処分利益	563,136,260	717,019,913
これを次のとおり処分いたしました。		
利益配当金 (1株につき)	54,901,000 (普通配当1,100円)	49,370,000 (普通配当1,000円)
別途積立金	200,000,000	400,000,000
次期繰越利益	308,235,260	267,649,913

12

Stock information

株式の状況／会社の概要

株式の状況 (2005年2月28日現在)

■ 会社が発行する株式の総数 200,000株
 ■ 発行済株式の総数 53,955株

(注) 1. ストックオプションに係る新株予約権の行使により、2004年2月末に比べ1,085株増加しております。
 2. 2005年4月20日をもって1株につき10株の割合で株式分割し、485,595株を追加発行しております。これにより会社が発行する株式の総数は539,550株になり、発行済株式総数は539,550株となりました。

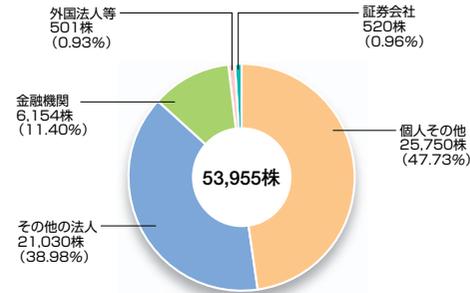
■ 株主数 4,878名

大株主

株主名	持株数	議決権比率
有限会社ワイ・エイ・ケイ・コーポレーション	16,500 株	33.06 %
秋山良夫	2,000	4.00
株式会社山陰合同銀行	1,100	2.20
ティーツー従業員持株会	1,055	2.11
大橋康宏	1,034	2.07
東京海上日動火災保険株式会社	1,000	2.00
住田幸雄	825	1.65
株式会社中国銀行	800	1.60
日本証券金融株式会社	722	1.44
株式会社UFJ銀行	700	1.40

(注) 当社は自己株式4,045株を保有しておりますが、表記しておりません。

所有者別株式分布状況



会社の概要 (2005年2月28日現在)

商号 株式会社ティーツー
 英訳名 TAY TWO CO., LTD.
 店舗名 古本市場、アイ・カフェ、ブック・スクウェア
 創業 1989年10月
 設立 1990年4月
 本社 岡山市今村650番111 TEL (086) 243-8600
 東京オフィス 東京都港区芝大門2丁目4番7号浜松町大和ビル4F
 TEL (03) 5408-5542
 代表者 代表取締役社長 大橋 康宏
 資本金 1,123,374千円
 従業員数 322名 パート・アルバイト984名

主な事業内容

古本、TVゲームソフト・ハード、CD、DVD等の販売・買取及びビデオレンタル業務、アイ・カフェ（インターネット・コミック・カフェ）の運営

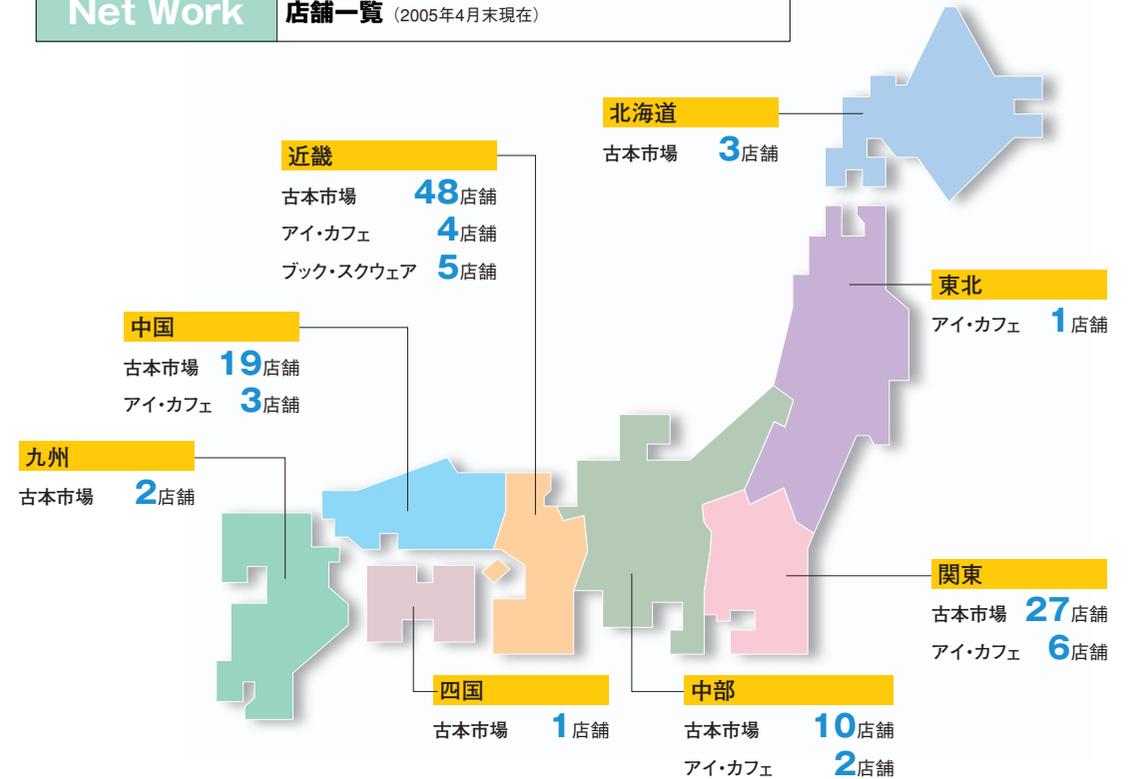
役員 (2005年5月26日現在)

代表取締役社長 大橋 康宏
 常務取締役 堀 久志
 常務取締役 北村 清人
 取締役 関本 慎治
 取締役 森崎 俊朗
 取締役 臼井 英明
 取締役(社外) 安田 育生
 取締役(社外) 吉田 就彦
 常勤監査役 西川 豊
 常勤監査役 湯浅 睦浩
 監査役 平田 修
 監査役 岡本 博之

(注) 1. 取締役のうち安田育生、吉田就彦の両氏は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。
 2. 監査役 西川豊、平田修及び岡本博之の各氏は「株式会社」の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

Net Work

店舗一覧 (2005年4月末現在)



新店舗

店舗名	所在地	オープン日
古本市場	黒部店	富山県黒部市前沢1927-1
	西陣店	京都市上京区智恵光院五辻下ル桜井町104
	A V I X 豊岡店	兵庫県豊岡市大手町7-30
アイ・カフェ	宮街道店	和歌山県和歌山市太田227-1
	Annex 安中店	群馬県安中市宿1080
	心斎橋店	大阪市中央区南船場3-7-27 心斎橋ホワードビル東館2F
	Annex 堀の宮店	福井県福井市文京6-23-2
	天王寺アポロ店	大阪市阿倍野区阿倍野筋1-5-31 きんえいアポロビル7F
	中庄サンフラワー店	岡山県倉敷市松島1177
ブック・スクウェア	三交店	三重県松阪市京町509-2 三交百貨店3F